

メキシコ文化、死者の日

渡邊航大

8月21日から、埼玉県日墨戦略的グローバルパートナーシップ研修計画を通じて、メキシコシティに留学させて頂いています。渡邊航大です。この留学も約三ヶ月目に突入し、まだまだ、メキシコ国立自治大学の授業についていくのは大変ではありますが、メキシコでの生活にも慣れてきました。以前のレポートにも書きましたが、こちらで実際に生活していると日本との違いに驚くことがよくあります。日本食レストランに行けば、メキシコ人はご飯に醤油をかけたりと、驚きつつ楽しみながら生活しています。

メキシコには死者の日と呼ばれる、簡単に言ってしまうと日本のお盆とハロウィンを一緒にしたような祭日があります。日本でもニュースになったり映画の題材になったりもしているので、メキシコに来たことがない人でもご存知の方は多いかと思います。自分自身、こちらに来る前から注目していた行事でした。この期間中は、街中に死者を祀るための祭壇が置かれます。死者を祀るための祭壇と聞くと、厳かなものを想像してしまいがちですが、メキシコの死者の日を通じて感じたのは、メキシコと日本の死に対する考え方の違いです。下の写真にも写っていますが、死者の日のシンボルは骸骨です。カトリーナと呼ばれる骸骨は死者の日、全体のシンボルになっています。その他にもこの期間中には頭蓋骨を模したお菓子を食べたりと、死者を祀るという行為は日本のお盆と同じですが、まったく違う方法でこの日を祝います。日本の感覚では、不謹慎と思われるかもしれませんが、祭壇に故人の好きだったものを飾ったりと、故人を敬う気持ちはもちろん共通しています。

この期間は、町中で仮装をしている人も多く見かけます。先述したカトリーナや、ゾンビなど様々な仮装をした人が特にメキシコシティの中央広場においてハロウィンの雰囲気を楽しむことも出来ました。

今まで、日本でのお盆に慣れていた私にとって、死者の日の体験は衝撃的で、新鮮なものでした。メキシコ文化の死生観は衝撃的ではありましたが、根本には死者を祀るという日本と共通の考えを感じる事が出来ました。

